

お洒落なシティ感覚 ケアタウン飛鳥



家庭のぬくもりそのままにケアホームさくら荘

◆ このひと.....紹介



城下聖一さんは、昭和38年1月22日、生駒高原のコスモス、霧島連山から湧き出る名水で有名な小林市出身の52歳である。少年時代は悪戯(いたづら)好きなヤンチャ少年だった。中学時代はバスケットボールに打ち込んだ。小林市といえばバスケットボールの強豪校小林高校が有名。中学時代は170cm以上もあり、端正な顔立ちで女子生徒から告白されるくらいだったとか。中学卒業後、高校には行かず神奈川県にある自動車会社に就職その後温泉で有名な大分県別府市にある陸上自衛隊別府駐屯地普通科連隊に所属していた。普通科連隊とは、戦術行動において主として近接戦闘により、敵を撃破または捕捉し、地域を占領確保し、小銃や機関銃、追撃砲を備えている。

陸上自衛隊の中では最も基本となる職種である。城下さんは主に大分にある日出生台演習場で軽機関銃や追撃砲を使い狙撃練習を行っていた。今でも銃から放たれる爆音を思い出すと話された。

普通科連隊に32歳まで所属した後、地元宮崎に帰ってきて宮崎駅周辺にある警備会社セコムに入社した。主に現金輸送の仕事をしており、宮崎銀行から各支店へ、金融機関から駅周辺の企業に現金輸送車に乗って輸送していた。強盗犯に現金を奪われないように常に緊張感を持って業務に取り組んでいた。

セコムで現金輸送業務を6年間勤めた後レンタカーの回送業に転職する。宮崎空港近くのレンタカー会社を中心に九州各地の会社のレンタカーを回送していた。回送中に、海沿いを走っている時が一番の楽しみだったと笑顔で話された。43歳の時のことだった。あの時は7月7日の七夕の日の出来事だった。宮崎から鹿児島空港のレンタカー会社まで回送していた時だった。九州自動車道を走行中に脳出血を発症し病院に運ばれ左片麻痺の後遺症が残る。発症してから1年後に今の奥様と結婚。実は、大分で普通科連隊に所属した20歳の頃からの知り合いとのこと。その24年の空白の時を得てのゴールインとなった。ハンディーを乗り越えての結婚とあって、本当に妻に感謝したいと話す。

城下さんはいつか叶えたい夢があると言う。それは歩ける自分の姿に戻って、妻と一緒にアメリカ旅行がしたいと話された。行き先はもちろん好きなバンドグループ・ベンチャーズのゆかりの地だそうだ。取材した日は52歳の誕生日。この日は奥様も面会に来られ、姿が見えるとニコニコ顔になっていた。

ようこそ陽だまりへ!



新春お茶会

焼きいも会



2015
2月号

● 有限会社 聖 ●
 住宅型有料老人ホーム ケアタウン飛鳥
 住宅型有料老人ホーム ケアホームさくら荘
 デイサービス 陽だまり ケアセンターさくら (訪問介護)
 ケアサポートセンター ひじり (居宅介護事業所)
 訪問看護ステーション 翔

2人の姿は絵になるようなおしどり夫婦だ。お茶目で面白いジョークは天下一品！現在、新しいジョークを作成中だと話す。最初に話すのはデイサービスのS君かな・・・乞うご期待だそうだ。

平成27年2月1日

平成27年2月1日

陽だまりレク活動・さくら荘焼き芋会

訪問看護ステーション翔
作業療法士 田上義人



当療法士は、結果を出すことに徹底的にこだわります。これからは質を問われる時代です。目的なくマッサージをしたり、出来ない動作を繰り返すだけの原始的なりハビリを行う時代は終わりました。原因を医学的に考え、対応しなければなりません。治るものを治し、治らないものは代償的手段で対応するという事です。ほとんどの場合、年齢や発症時期にかかわらず、過度な安静又は、過度な使用あるいは誤った使用により二次的な問題（本来の疾病以外からくる問題）が生じています。これにより、痛みの発生、可動域の制限、筋力の低下等がおこり、ひいては動作能力の低下が起こります。当療法士はこれらの問題を効率的に改善する技術を使用しております。

「患者こそ師」という言葉があります。上手くいったかそうでないかは患者（利用者）の身体の反応として現れます。答えは患者（利用者）の中にあり、そこから学ぶのです。これからも利用者様（患者様）のために研鑽を続けてまいりますので宜しくお願い致します。

ゲーム(風船バレー)



さくら荘焼き芋会

さくら荘で焼き芋会をしました。
香ばしい匂いに誘われて・・・
味の方は、とても甘くて美味しかったです



料理教室



メニューは豆腐ハンバーグ・ポテトサラダ・かき玉汁でした。

■一九九五年一月一七日午前五時四六分。大都市神戸を襲った阪神淡路大震災から二〇年がたつ。デイサービス陽だまりで看護師をしているAさんは当時大阪で看護学校の試験に受けに行ったそうだ。飛行機から見える神戸の景色は破壊されたビルや家屋が火災に遭い火の海になったりと、まるで地獄絵図のような感じだったと話される。そして宿泊する予定だったビジネスホテルも泊まることができずに看護学校の学生寮で宿泊したというエピソードがある。現代は当時を知らない世代も増えてきた。あの日を忘れない。そういつて私たちは災害の怖さを知りながら日々の生活を過ごしているのだろう。

■一月二〇日は大寒だった。一年の中で一番に寒いことを言う。デイサービスでは朝礼の際にその日のリーダーが職場の教養を読んで一人が感想を述べている。一月二〇日の題は「寒いからこそ」だった。文中の中で、桜は、冬の寒さにさらされない花が咲かない性質がある。休眠状態であった桜は、真冬になると厳しい寒さが目覚ましとな

いんともみじの 観察日記



り、春を迎えて一気に成長して花を咲かせる。冬の寒さがあってからこそ、美しい花を咲かせる。春は花 夏ほととぎす 秋は月 冬雪さえて冷しかりけり。これは日本の四季を詠んだ、道元弾師である。「雪が降る寒い冬さえ何とすがすがしいことか」と歌っている。冬は寒いから苦手だという人も多いが寒さが必要なこともある。冬という自然の季節に感謝しながら乗り切っていきたいものです。

■一月一二日は成人の日であった。利用者の方にも成人式のこと聞いてみたが、昔はなかったという。調べてみると、戦後まだ間もない時期の一九四六年に埼玉県で行われた青年祭がそのルーツだと言われている。そして一九四八年に成人の日が一月一五日に定められた。二〇〇〇年からは現在の形になっている。一月第二月曜日になっている。女性の利用者のTさんは、二〇歳の頃を聞くと「私は当時、俳優の高倉健さんみたいなイケメンの男性に恋しちゃってね、もし現れたら告白しちゃうかも」と青春に戻ったみたいと話されていた。ちなみに成人式の発祥は宮崎の諸塚村とされている。